

# 健康美容と鍼灸

日本中医学会 評議員 一般社団法人 日本美容鍼灸協会 代表理事 北川 毅

美容に対する鍼灸の効果が日本でも認められるようになり、「美容鍼灸」という言葉も、今ではすっかり認知されるようになった。しかし、「美容鍼灸」という分野の鍼灸が今のように広く認知されるようになったのは、今からほんの7年ほど前のことであり、2006年8月に「医道の日本社」から『医道の日本 臨時増刊 No.11 特集：美容と鍼灸』が刊行され、同誌が多くの専門家の目に止まったことが大きなきっかけであった。同誌が刊行される以前には、美容の看板をかかげて鍼灸を行っていた鍼灸師は全国でも皆無に等しく、例えば、「Google」や「Yahoo! JAPAN」などのインターネットの検索エンジンで、「美容鍼灸」というキーワードで検索しても、得られる情報は10件にも満たないような状況であった。一方、それからわずかに7年後の現在（2013年7月1日現在）、「Google」および「Yahoo! JAPAN」では、「美容鍼灸」のキーワードによって、1,780万件もの情報がヒットするようになっている。そして、この数字は、美容鍼灸という新しい分野の鍼灸が、この7年ほどの期間に飛躍的な普及を遂げたということを示唆しており、同時に、「美容」という分野が、従来にはなかった規模とスピードで、鍼灸に対する「需要」を拡大させたことを示している。一方、2000年以降の規制緩和政策により、現在、鍼灸の学部や学科を設置する学校が100校を超える水準で増加し、それに伴って、入学定員も“過剰”を超えた水準で激増している。このような状況変化に伴い、(社)日本鍼灸師会、(社)全日本鍼灸マッサージ師会、(社)全日本鍼灸学会、(社)東洋療法学校協会の4団体は、過当競争により将来さまざまな弊害が生じることを憂慮し、鍼灸需要喚起検討会を設置して「鍼灸需要喚起のための提言」をまとめた（『医道の日本』Vol.65, No.7 P7より）。このように、鍼灸師を取り巻く環境が厳しさを増していく状況下、「Google」や「Yahoo! JAPAN」が示す検索ヒット数は、美容鍼灸という新しい分野の確立が、「鍼灸需要喚起」という私たちの大命題に対して多大な貢献を果たしたことを示唆している。

このように、美容鍼灸という新しい分野の鍼灸が普及している現状は歓迎すべきことであるが、一方では、美容鍼灸という分野がまだ未成熟な分野であることから、それに起因したさまざまな誤解や問題が生じるようになった。また、そればかりでなく、将来的に起こりうるさまざまな問題について危惧する声も少なくない。例えば、経験を積んだベテランの鍼灸師よりも経験の浅い若い鍼灸師が、この分野の鍼灸をやりたがる傾向が強いことから、鍼灸師としての知識や経験が浅いことによって、利用者が不利益を被ったり、大きな問題を起こすことも懸念されている。このような現状から、美容を目的とした鍼灸が健全に普及していく

ためには、前提として、その「概念」と「本質」が正しく認知されることが不可欠である。

## 鍼灸治療と美容鍼灸

鍼灸は、元来、疾病を治療したり健康を維持したりすることを目的として発展してきた治療法であり養生法である。また、鍼灸の発祥地である中国には、古来より「健やかな身体は美しい」「人間の美は健康を基礎として成り立つものである」という思想が存在し、美容は伝統医学のなかで実践され発展してきた。そのため、欧米や日本では、「医療」と「美容」はそれぞれに別の分野として区別される傾向があるが、中国では、歴史的に両者の間に境界が存在しなかった。現代においても、中医学には、美容を専門に扱う一専門分野として「中医美容学」という科目が確立されており、鍼灸、生薬の内服・外用、推拿、食療、気功など、中医学の治療法と同じ手法が美容を目的として応用されている。西洋に「エステティック」と呼ばれる美容学が存在していることに対して、「中医美容学」は、東洋の伝統医学のなかで発展した東洋特有の美容学である。そして、「美容鍼灸」とは、このような東洋の美容学における主要な手法の1つとして位置づけられているものであり、東洋の伝統医学の思想と理論に立脚して行われるものである。

前述のとおり、鍼灸は、紀元前の中国で発祥し、特定の疾患や症状を治療することを目的として発展した治療法である。それでは、その「鍼灸治療」と「美容鍼灸」の違いは何であろうか。美容を目的とした鍼灸の健全な普及と発展を目的として設立された「一般社団法人 日本美容鍼灸協会」では、美容鍼灸を「人体の外見美に対する評価の向上を一義的な目的として行われる鍼灸」とであると定義している。人体の外見美に対する評価を高めること、すなわち「美容」を主目的として行われた場合に、その鍼灸は、特定の疾患や症状の改善を目的とする「鍼灸治療」と区別して「美容鍼灸」と呼ばれる場合があるということである。そして、このような実情から、美容を目的とした美容鍼灸の本質を正しく理解するためには、前提として、「美容」というものについて正しく理解することが必要となる。

## 美容の各専門分野

美容とは、人体の外見美に対する評価を向上させることを目的として、顔や体形を美しく整えることである。そして、ひと口に「美容」と言っても、美容にもさまざまな手法や分野があり、また、鍼灸や伝統医学と関係性があるものと、ないものが存在する。

### 装飾美容

戦後の日本の美容は、「装飾美容」と呼ばれる分野を中心として発展してきた。装飾美容とは、毛髪に手を加えたり、顔面部に化粧品類を塗布するなどの方法によって、人体に装飾を施すことによる美容の手法である。日本には、「美容師」

と呼ばれる国家資格があり、美容師・管理美容師全般の職務・資格などに関して規定した法律として「美容師法」（昭和32年6月3日法律第163号）という法律が存在する。そして、この法律では、美容とは「パーマメントウェーブ、結髪、化粧等の方法により、容姿を美しくすること」と定められている。したがって、美容師法の定めるところでは、「美容師」の職務には、装飾美容の分野である「パーマメントウェーブ、結髪、化粧等の方法」が該当する。このような経緯から、日本の場合には、「美容」という言葉からは、メイクアップやネイルアートなどを含めた装飾美容が連想される傾向がある。そして、装飾美容の分野と鍼灸は、おおそ接点のない無縁の存在であると言える。したがって、装飾美容を美容の全体像として認識した場合には、「どうして鍼灸師が美容を行う必要があるのだ」という疑問が生じる可能性もある。しかし、昭和時代に制定された美容師法が定める「美容」（装飾美容）は、もはや美容における1つの分野にすぎないものになったというのが、今の時代の実情である。

### 美容外科

美容を目的として、顔面部の形態や皮膚の状態を改善したり、外見的な老化を予防したり（アンチエイジング）、体形を美しく整えたりすることは、人体に装飾を施すことによって実現できるものではない。このような分野では、人体そのものの形態や機能を改善することが必要となり、多くの場合に医療的な知識や技術が求められる。そして、美容師法の定める美容師の職務範囲にも、上記の業務は含まれていない。そのため、この分野の美容は、主として「美容外科」と呼ばれる領域において、医師によって実践されている。美容外科の分野は、医療の知識と手法が美容を目的として応用されたものであるが、整形手術やボトックスなどの薬物による施術が主体であり、医療の本来の目的である「健康の維持・回復」ということとは、おおそ関連性がない。そして、現時点では、鍼灸や伝統医学とも、おおそ接点はない。

### エステティック

美容を目的として、肌や身体の手入れを行うサービスは、日本では「エステティックサロン」と呼ばれる美容サロンで「エステティシャン」と呼ばれる技術者によって行われてきた。「エステティック」（仏：esthétique 英：aesthetic 独：ästhetik）は、フランスで発祥した美容に関する知識体系と技術であり、戦後、日本にも積極的に導入された。エステティックの分野では、主として美顔、痩身、無駄毛の脱毛などのサービスが行われており、日本に紹介されて久しいことから、日本でもすでにすっかり定着している。そのため、「エステティック」という言葉は、肌や身体「美容」そのものとして使用される傾向もあるが、実際には、上記のように、美容にはさまざまな分野があり、「エステティック」は美容の一分野であるにすぎない。また、エステティックの分野で行われているサービスも、美容師法が指定する美容師の職務に含まれていないということもあり、日本には、この分野の職務・資格などに関して規定した法律がない。そのため、エステティックに関する業務は、日本では、多くの場合に国家資格を持たない技術者によって行われており、私たちが行っているような治療行為を行うことはできない。一方、われわれが専門とする鍼灸は、美容を目的として肌や身体

手入れを行うための手法として、優れた効果を期待できる場合がある。特に、エステティックのサービスとして行われている美顔や痩身を目的とした施術では、鍼灸という手法を用いることで、より良好な効果を得ることができる可能性がある。美容鍼灸は、視点によっては、エステティックが担ってきた領域に対する鍼灸の応用と拡張であると言えるであろう。

## 鍼灸師による「健康美容」の提唱

「ストレス社会」「長寿社会」を反映して、近年、世界各地でたいへん注目されるようになったのが、「健康にもとづく自然美」という観念であり、「装飾美容」や「美容外科」とは異なる思想と方向性をもつ美容である。21世紀は、物質よりも「人間性の時代」と形容されている。そして、このような時代の状況により、人々は物質や富を手に入れることよりも、「癒されたい」「健康で若々しくありたい」という願望をもつようになり、人を癒しながら美しく健康にする考え方・技術・場に対する関心が高まっている。このような状況に伴い、美容の分野では、世界的に「健康指向」「自然指向」が高まり、「健康」と「美容」の2つの分野は相互に強く結び付いてきた。今日では、「健康にもとづく自然美」を追求する、より自然で非侵襲的な方法が求められ、「ナチュラルビューティー」(natural beauty) や「インナービューティー」(inner beauty) をコンセプトとする製品や技術が高く評価されている。しかし、このような「健康にもとづく自然美」を目的とする手法や分野には、「装飾美容」や「美容外科」のような明確な名称が存在しない。そのため、筆者自身は、この分野の美容を「健康美容」と位置づけ、鍼灸がその主要な手法であると認識している。装飾美容の分野では、化学薬物を多用した美容化粧品が販売されており、美容外科の分野でも、ボトックスやフィラー（注入物）などの薬物が使用され、また、外科的手術が行われている。このような化学薬物や外科的手術に依存する方法には、副作用をはじめとするさまざまな問題が内包されていることから、医療の分野ばかりでなく、美容の分野においても、一般消費者から敬遠される傾向が強くなっている。一方、「エステティック」の分野も「健康にもとづく自然美」を目指してはいるが、日本では専門の公的な資格が存在せず、「治療行為」も行うことができないため、その業務範囲に大きな制約が存在する。さらに、エステティックの分野では、技術者の教育や技術の水準に大きなばらつきがあることから、利用者が安心して安全なサービスを受けることが難しいという問題もある。一方、鍼灸は、化学薬物など

	職務を行う者	主な職務
装飾美容	美容師 (国家資格)	カットティング, パーマネントウェーブ, 結髪, 化粧など
美容外科	医師 (国家資格)	整形手術, ボトックス, フィラーなど
エステティック	エステティシャン (無資格)	美顔, 痩身, 脱毛の一部など
美容鍼灸 (健康美容)	鍼灸師 (国家資格)	鍼灸

に依存しない自然療法であり、外科的手術に比べて非侵襲的で、健康を維持・増進・回復する効果のあるきわめて独特な施術である。また、鍼灸は、元来「治療法」であることから、必要に応じて、エステティックの分野では行うことのできない「治療行為」を行うことも可能であり、人の容姿に悪影響を及ぼす「尋常性痤瘡」（にきび・吹き出もの）や円形性脱毛症などの疾患や症状に対する治療を行うことも可能である。鍼灸が、美容の分野でとりわけ注目されているのは、「ストレス社会」「長寿社会」と呼ばれる現代社会において、人を元気にしながら美しく健康にする「健康美容」の有効な方法として、「癒されたい」「健康で若々しくありたい」という人々の需要に対して、着実に応えているからである。

## プロフィール

北川 毅（きたがわ・たけし）



### ● 現職

日本中医学会 評議員，一般社団法人 日本美容鍼灸協会 代表理事，日本健康美容鍼灸研究会 会長，東洋医療専門学校 特別顧問，トライデントスポーツ医療看護専門学校はり・きゅう学科 顧問，YOJO SPA オーナー

東京・港区の YOJO SPA にて鍼灸治療と美容鍼灸の施術を実践するかたわら、鍼灸，美容，スパに関する教育，講演，執筆，

翻訳，研究まで，幅広く活動中。

### ● 著書・監修・翻訳

『健康で美しくなる美容鍼灸』（BAB ジャパン）

『DVD 美容鍼灸の実践』（医道の日本社）

『中医学 美養生ダイエット』（新潮社）

『きれい&元気になるツボ』（池田書店）

『The SPA 健康と美容のためのスパトリートメントガイド』（フレグランスジャーナル社）

『デイスパ開業マニュアル』（フレグランスジャーナル社）など